

市民が調べた相模原市内の「団子焼き」〔No.10〕

加藤隆志・道祖神を調べる会

本報告は、平成 26 (2014) 年 1 月に行われた市内及び周辺各地の「団子焼き」行事の様相を記したものである。本館では、平成 14 年 11 月から 18 年 3 月にかけて民俗講座「道祖神を調べる会」を実施するなかで講座の参加者が 16~18 年の三カ年に渡って行事を調査し、その結果は本研究報告第 14~16 号に報告してきた。講座自体はすでに終了しているが、講座参加者の有志がさらに 19 年以降の行事を調査するなどしており、本稿は 10 回目の報告となる (注)。

今回は、市内一円を回って準備や実施に係わる様子を撮影した写真を中心に報告する (場所の後の数字は写真番号と対応するほか、No は「市民が調べた相模原市内の「団子焼き」〔No. 3〕」30~31 頁掲載の「団子焼き」調査表の地点番号と対応)。

○緑区

〔青山神社他 1~4〕 境内で実施。18 日 (土) の早朝に点火。青山地区は関上や大堀などを含め同日の朝に実施される。なお、青野原・西野々は 13 日に回ったところでは終了後だった。

〔寸沢嵐・道志 5~6〕 小屋を作る地区で、館は古いものを燃やした跡があり、新しい小屋ができています。南は清光寺に新しい小屋がある。北はまだ古いもののみだった。増原・山口は 13 日には終了後だった。

〔千木良・岡本 7〕 14 日午後 5 時点火。牛鞆神社では同じく 14 日午後 3 時点火予定。

〔城北 No.1 8~9〕 これまで 14 日だったが、今年から第二日曜日に実施。

〔町屋 No.2 10〕 12 日 (日) 実施。

〔久保沢 11〕 13 日 (祝) 実施。

〔畑久保〕 13 日には燃やすものの準備あり。

〔中沢 12〕 13 日午後 5 時点火。年男男女に当たる小学校 5 年生が点火する。

〔小倉 13~18〕 小倉では 4 か所あり、同時に行われるという。小倉橋下では午後 3 時頃点火。河原では午前中に燃やすものの準備を作り、午後 4 時点火。

〔葉山島・藤木 19〕 13 日には燃やすものの準備あり。

〔二本松八幡神社 20~21〕 13 日 (祝) 朝に点火。神主

が燃やす前にお祓いを実施した。

○中央区

〔東嶽之内・ニュー相模団地 No.18 22~24〕 12 日 (日) 午後 4 時点火。6 時までには終わらせる。元は中里橋横で実施していたが工事関係で使えなくなり、ここ数年はあおぞら子供広場で実施。燃やすものに「道祖大明神」の御札が張っており、この御札は中淵自治会長が持つてくる。事前に会長などが縁切り榎のところにある道祖神 (銘文では庚申塔・地神塔と石祠) にお神酒を供えるが、これらの石仏にも同じ御札が張ってある。点火前にお神酒を四方に撒き、四本の注連縄に火をつけて、一本ずつ四方から点火した。団子は一本枝に三個ついている。

〔田名・新宿 25~27〕 12 日 (日) 午前 9 時から準備を始め、出来上がったものを道祖神の上に被せておく。点火は午後 1 時で新宿自治会館で行い、午前中に作ったものも燃やす。

○南区

〔古淵鹿島神社 No.20 28~32〕 12 日 (日) 午後 2 時点火。1 月 14 日午後 5 時点火に決まっていたが、子どもが集まれないなどの声があり、今年から 14 日に近い日曜日の昼間の点火に変更された。これまでは対岸から山が燃えていると何回も通報されていた。各家のお飾りを集めて作ったお宮と木材などを積んだ大きなものと両方作る地区で、先にお宮に火を付ける。木を燃やす場所は大きな松があり、80 年ほど前にそれを掘った所を利用して行うようになった。かつては孟宗竹で立派な屋敷のようなものを作っていた。団子を付けた枝は燃やさない。魔よけになる。例年通り、お互いに焼いた団子を取り替えるトッケイ団子を行う人も見られた。

〔上鶴間中和田 No.39 33〕 風っ子広場で実施。午前中に準備を行い、午後点火。自治会館では団子作りを行った。

〔当麻・中宿下宿 No.62 34~35〕 13 日 (祝) 午前 9 時前に点火。行事は午前中にやるものという。藁で小屋を作っている地区で、新しいものが出来ていた。小屋は前日に役員 5 名で作った。昔は竹があったのもっと大きく作った。今ではお飾りも年々少なくなっている。中宿下宿では、5~6 軒ずつで 8 組あり、毎年当番が回っ

てくる。

今年は一組が製作した。組の作業ではこれを作るのが主な仕事という。宿では、上宿が家が増え、下宿が区画整理で今後増える見込みなのに対して中宿が減っており、上と中下宿を一緒にしたらという話も出ている。お神酒を上げて点火したが、しばらくすると団子焼きに人が集まってきた。

○町田市

[木曾境川・中原自治会 36～38] 12日(日)午後1時点火。4時からは新年会。道祖神の石を燃やす地区で、古いものに替えて新しく作った道祖神碑を燃やしている。年男年女が社殿の前のろうそくから破魔矢に火を付け、その火で点火する。

[金森杉山神社 39～41] 14日。昼に燃やし出して6時頃まで燃やす。団子を焼く人は適宜やってくる。ゴロ石を燃やしており、普段は他の石仏とともに置いてあり(ゴロ石を置くためのスペースを作っている)、ここから燃やすためのトタンに運んで、四隅に一つずつ置く。ゴロ石は熱くて取り出せないため、明日に取り出す。なお、木曾境川・中原自治会と金森杉山神社の事例については、当館と町田市立博物館が合同で実施した調査の報告書である『境川流域民俗調査報告書』において、畠山 豊(当時町田市立博物館学芸員)が「境川流域の民俗―町田側の視点から」の中で触れている。

[町田天満宮 42] 14日午後2時前に、神主が焼く所や御札が納められた所のお祓いをして、納札場を解体して燃やす場所に運ぶ。その間にも次々と自宅のお飾りを持ってくる人があり、しばらくすると団子を焼きに来る人もいる。

今回の報告は以上のようなごく簡単なものではあるが、それでもいわゆる道祖神の小屋を当日に作って道祖神碑に被せておき、それをその日のうちに燃やしてしまうといった田名・清水地区と同様な事例を田名・新宿地区で確認し、その詳しい状況は2015年の1月11日に調査することができた。また、城北や古淵鹿島神社での日程・時間の変更といった事例も追うことができたのは、多少なりとも継続的に毎年の行事について調査を実施している成果であり、今後ともさらに未調査地域での調査を進めるとともに、変化していく状況を併せて把握して事例を蓄積していきたいと考えている。なお、今回の報告に当って、調査にご協力いただいた方は、五十嵐 昭さん・佐々木康資さん・千葉宗嗣さん・山本勝章さんである。

注

加藤隆志・道祖神を調べる会 「市民が調べた相模原市内の「団子焼き」[No.1～9]」『相模原市立博物館研究報告』第14～22号 相模原市立博物館 2005～2014。第14号・2004年、15号・2005年、16号・2006年、17号・2007年、18号・2008年、19号・2009年、20号・2010年及び2011年、21号・2012年、22号・2013年の様相を報告している。本報告の趣旨については14号のNo.1に掲載したほか、講座を実施していた3年間における調査全体のまとめと分析は16号のNo.3で行った。なお、この調査全体の意図や調査成果及び講座の一環としての博物館活動との係わり等については、加藤隆志「地域博物館における市民による調査の実際―民俗講座「道祖神を調べる会」の活動から―」『博物館の仕事』8人の学芸員著 岩田書院刊 2007 においてもまとめているので参照していただければ幸いである。



1 青山神社



2 青山神社



3 青山大堀



4 青山関上



5 寸沢嵐道志館



6 寸沢嵐道志南



7 千木良岡本



8 城北



9 城北



10 町屋



11 久保沢



12 中沢



13 小倉



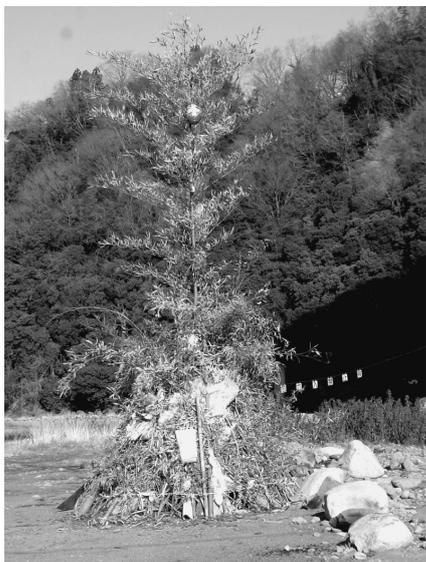
14 小倉



15 小倉



16 小倉



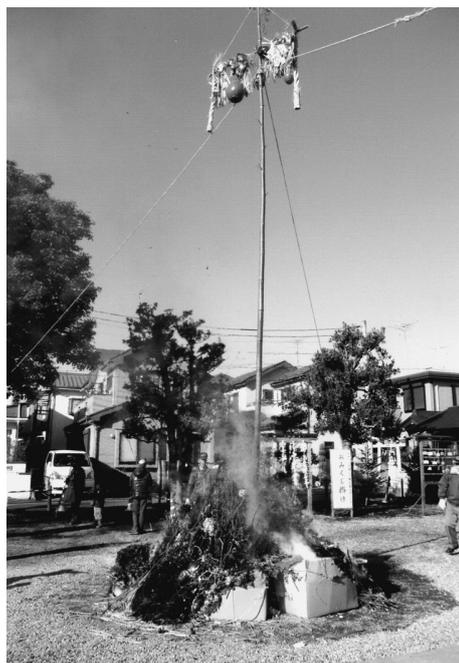
17 小倉橋下（宮原）



18 小倉橋下（宮原）



19 葉山島藤木



20 二本松



21 二本松



22 東嶽之内



23 東嶽之内



24 東嶽之内



25 田名新宿



26 田名新宿



27 田名新宿



28 古淵



29 古淵



30 古淵



31 古淵



32 古淵



33 上鶴間中和田



34 当麻中宿下宿



35 当麻中宿下宿



36 町田市境川



37 町田市境川



38 町田市境川



39 町田市金森杉山神社



40 町田市金森杉山神社。隅にゴロ石が見える



41 町田市金森杉山神社。手前の穴に普段はゴロ石が置いてある



42 町田天満宮